

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり中庄		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 1月 14日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児やご家族のことについて、職員間で情報共有し、本人支援・家族支援等を行うことができていること。	日々の申し送りや、記録媒体(文章だけでなく、写真や動画など)等を通じて1日の様子をお伝えしたり、ご家族からのコメントをいただいたりし、双方向のやりとりを行っている。	お子さんの成長や進路を踏まえて、本人支援・家族支援・地域支援を行っていくことができるように、支援計画の作成実施や、日頃からの情報共有を行っていく。
2	重心児、医ケア児の受け入れにあたり、保育士、介護職、機能訓練指導員、看護職員を配置でき、体制を整えていること。	多職種がそれぞれの専門性を活かしたお子さんの支援が行えるようにしている。支援についても相談し様々な視点からお子さんの支援計画の作成などを行っている。	職員の専門性を高めていくだけでなく、他分野の業務などの理解も深め、よりチームワークを発揮できる体制にしている。
3	事業所のあるエリアに他事業所(児童発達支援、成人期サービス(生活介護・就労継続支援B型)、保育所等)があり、切れ目ない支援や将来を見据えた関わりが行えること。	お子さんが様々な資源や人との関わりをもつだけでなく、職員も交流研修や連絡会、勉強会などを通して制度の理解や将来を見据えた支援を考える機会がある。	法人内での関わりだけでなく、地域の園などと行事や普段からの交流の機会を意識し、取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子さんにとって、十分な活動、運動、排泄等のスペースの確保が出来ていない。	1つの室内で活動できるスペースが限られている。	事業所のあるエリアの建物などにある資源を有効活用し、お子さんにとって様々な活動の機会の提供を行うことで、発達支援、成長を促していきたい。
2	多職種間での更なるチームワークの醸成。	各専門職の特徴を発揮する場と、協力して支援等を行う場とのバランスについて、職員間で認識確認を行う。	お子さんの個々のケースや環境設定などについてサービス提供終了後の時間の活用の仕方などを見直し、それぞれの専門性の発揮と協力体制を強化していく。
3			